

		事業内容	取組状況(令和3年3月末時点)	進捗評価(令和3年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおっちょけん」のひとづくり	ふくしの心を育む	関心を高めるきっかけづくり	○ソーシャルメディアを活用した広報 ①SNS掲載マニュアルを作成 SNSの管理運用方法及び社内決裁の簡素化 ②ホームページ 随時情報を更新できるよう業者との打ち合わせを行い、内容の充実を図った。 訪問ユーザー数(実人数)34,584人(内、新規ユーザー34,486人) ③フェイスブック フォロワー数626人、掲載回数53回 ④インスタグラム 名士チャリティ色紙展示即売会、さずな農園で活用 合計フォロワー数482人、掲載回数…260回 ⑤ツイッター 名士チャリティ色紙展示即売会で活用 フォロワー数341人、掲載回数266回	【情報発信】 ・ホームページ運営 (アクセス数) 165,000/年 ※リニューアルにより実績値のアクセス数カウントできず、ページ間 (記事掲載数) 50回/年	B	ホームページの情報をより分かりやすいものにしていくため、ホームページ委託業者と、定期的な打ち合わせを継続する。 市民に対して更に情報発信をしていくため、ユーザー数がより多い新たな広報媒体(公式ライン)を導入し、広報の強化を図る。
		「ほおっちょけん」の住民意識づくり	○高知市内の各圏域において、地域共生社会の実現に向けて第2期地域福祉活動推進計画の周知を行った。 ①計画の説明 122回(延べ1,123人) ②地域福祉コーディネーターのチラシ配布 313回(延べ人数3,171人) ③ボランティアセンターの説明 105回(延べ人数791人) ○「ほおっちょけん」キャラクター広報物 ①「ほおっちょけん」焼印付どら焼きを随時販売(菓舗浜幸協力)合計販売数2,599個 ②名士チャリティ色紙展示即売会事業にて、無償で企業や名士の協力を得る <b>(新規)・名士に「ほおっちょけん」キャラクターを描いてもらい、SNSにて発信及び販売(合計29点)</b> ・トートバッグ専門ブランド「ROOTOTE」がほおっちょけんトートバッグを製作、SNSにて発信及び販売 ③高知市社会福祉大会表彰者記念品として「ほおっちょけんコースター」49個を製作 ④市民等より地域福祉活動への寄付によりほおっちょけんバッジを88個配布 ⑤高知市内の小中学校等の児童生徒等への啓発のため、ほおっちょけんシールを4,864枚配布 ⑥ほおっちょけんポロシャツを就労支援事業所さずなで製作・販売 274着 ⑦ ほおっちょけんボールペン300個作成、企業版ほおっちょけん学習等で配布 ○新聞掲載等の回数 8件	・ほおっちょけんシール 5,000枚/年 ・ほおっちょけんバッジ 配布数1,000個	B	引き続き、各圏域に地域福祉コーディネーターが出向き、地域で活動する各種団体や組織の代表者等に働きかけ、第2期地域福祉活動推進計画の周知を行う。  ほおっちょけんキャラクターを活用して、広報媒体の拡充を図る。 ①ほおっちょけん学習等にて配布するため、ほおっちょけん塗り絵を約4,000枚作成予定(令和2年度県共同募金助成事業) ②社協サポーター等に配布するため、ほおっちょけんエコバッグ500個・A4クリアファイル1,000枚を作成(令和2年度県共同募金助成事業) ③ほおっちょけんLINEスタンプを作成(令和3年度県共同募金助成事業申請中) ④ほおっちょけんグッズ入りガチャポンを製作(令和3年度県共同募金助成事業申請中)
		「ほおっちょけん」学習(福祉教育)の推進	○ほおっちょけん学習(福祉教育)の推進 ①ほおっちょけん学習の開催 開催数 保育園・幼稚園 8園(令和元年度実績) ⇒3園 小学校(放課後児童クラブを含む) 10校(令和元年度実績) ⇒3校,1ヶ所(児童館) ※新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見合わせる園や学校が増加(18ヶ所中15ヶ所中止) <b>(新規)高等学校・専門学校での福祉教育の実施</b> (春野高校、平成福祉専門学校にて地域福祉の授業を実施) <b>(新規)民間企業 2社</b> ほおっちょけん学習を受講した人 326名 学習に参画した地域住民 延べ63名(令和元年度実績) ⇒39名 ②福祉教育の拡充に向けた取り組み 年代別福祉学習プログラムの作成に向けた検討 <b>(新規)ほおっちょけん学習サポーターの養成 登録者 49名(講座受講者 55名)</b> <b>(新規)福祉教育実践ガイドブックの作成検討</b> ③ふれあい体験学習 受講生 4,671人	【「ほおっちょけん」の展開】 ・ほおっちょけん学習 (福祉教育) 保育園等 20園 小・中学校 18校 地域・民間企業 40箇所 ・ほおっちょけん学習 サポーター(新規) 40名養成 ※ほおっちょけん学習サポーター 養成は令和2年度からの予定  ・ふれあい体験学習 【市委託業務】 5,000名/年	B	ほおっちょけん学習の実施に関しては、従来の開催方法から感染対策に留意した方法へと改良が必要。 また、学習方法や学習素材を整理し、保育園や幼稚園、小学校等で実践してきた内容を年代別、理解度等にまとめ、総合的な学習の時間などで参考となるような福祉教育プログラムを作成し、実施に向けた働きかけを行う必要がある。 さらに、ほおっちょけん学習の地域展開に向けて新たに学習サポーターの養成を行う。 令和2年度にモデル的に実施した企業版ほおっちょけん学習について方法や素材を整理し実践に向けた提案を行うために作成したパンフレットを活用し、新規開拓に向けた働きかけを行う。

		事業内容	取組状況(令和3年3月末時点)	進捗評価(令和3年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおっちょけん」のひとづくり	ふくしの担い手を育む	活動につながるきっかけづくり	<p>○既存ボランティアへの情報発信 既存ボランティア登録者へ2か月に1回、ボランティア活動の情報紙を発送する。その情報によりボランティア活動へつながった事例4件。ボランティア情報と共に、コロナ禍でも感染拡大を防ぎながら地域活動を絶やさずにつながり続けることに繋がるよう、地域活動の紹介を中心とした情報発信を行う。</p> <p>○ボランティア登録者の増加への取り組み 緊急事態宣言の時期はボランティア登録者へ活動自粛を呼びかけた。 こうち笑顔マイレージの受入施設は、緊急事態宣言解除後も外部からの立ち入りを制限する施設が多く、ボランティアを受け入れる環境になかった 地域活動は感染防止策を取りながら再開したが、コロナ前にできていたことが新しい生活様式に伴い変化したため、新たな活動や人を受け入れることよりも優先され、活動の増加には至らなかった こうち笑顔マイレージのボランティア活動のチラシを作成。「ほおっちょけん相談窓口」のチラシと共に配布。(相談窓口設置をしている地区の量販店、ドラッグストア、銀行、郵便局等へ約1800枚) こうち笑顔マイレージ受入施設へのヒアリング調査実施 気くばりさんへのアンケート調査実施 ・こうち笑顔マイレージ 新規登録者8名(総数 264名) ・気くばりさん 新規登録者20名(総数559名) ・福祉委員 新規登録者無し(総数 143名) 導入13地区 <b>(新規)・生活支援ボランティア 38名(総数 38名)</b> <b>(新規)・ほおっちょけん学習サポーター 49名(総数 49名)再掲</b></p>	<p>【ボランティア登録者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうち笑顔マイレージ 800名 稼働率80%</li> <li>・気くばりさん 900名 稼働率80%</li> <li>・福祉委員 導入25地区 500名</li> <li>・ボランティアに関する相談 件数100件/年</li> </ul>	B	<p>新型コロナウイルス感染症対策を行いながら活動を続けているが、コロナ前にできていたことが十分に実践できる環境ではない。特にこども食堂や地域食堂等の飲食を伴う活動、施設でのレクレーションを実施していた団体の活動など、縮小せざる負えない状況にあり、ボランティアの活躍できるための環境が整わない。 そういった状況にあっても、感染拡大を防止しながらつなげる方法、接触せずにつながり続ける活動が展開できるよう、専門職と連携しながら、ボランティア活動者の抱える悩みや不安を受け止め、コロナ禍においても活動できるよう情報提供と相談対応を継続をしていく。</p>
		担い手がいきいきと活躍できる環境づくり	<p>○ボランティア団体への支援 ボランティア保険の案内受付</p> <p>○ボランティアのニーズ受付 関係機関からの相談件数 65件</p> <p>○ボランティアのマッチング 寄せられた相談に対して気くばりさんやマイレージボランティア等をマッチング 97件(令和元年度実績) ⇒80件</p> <p>○ボランティアの研修 <b>(新規)江ノ口地区、三里地区にて生活支援ボランティア養成講座を開催</b> <b>(新規)ほおっちょけん学習サポーター養成講座を開催</b> マイレージボランティアのフォローアップ研修を開催</p> <p>○市の実施する人材育成講座等での啓発 認知症サポーター養成講座等の研修会にて、ボランティアセンターのパンフレット等を配布</p> <p>○大学生等の若い世代との協働 地域福祉活動や街頭募金活動等を大学生や専門学生に情報提供し、ボランティアマッチングを実施</p> <p>○高齢者の社会参加の促進 こうち笑顔マイレージボランティアの登録者が登録施設でのボランティアにとどまらず、地域での困りごとへのちょっとしたボランティアへつながるよう情報提供を行った。 生活に関するちょっとした困りごと等をお手伝いする生活支援ボランティア38名の養成。(再掲)</p>	<p>【既存ボランティアのフォローアップ体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア連絡会 2回/年</li> <li>・フォローアップ研修 2回/年</li> </ul>	B	<p>社会資源情報の整理、データベース化(リコネットの活用)を継続して実施し、活動者がボランティアセンターを活用しやすい環境を整える。 研修に対するニーズはあるが、実施時期と感染流行時期が重ならない工夫が必要である。 地域福祉コーディネーターと協働し、ボランティアのコーディネーター、担い手の活動を支えるための研修、相談対応、情報提供等を継続して行う。</p>
ふくしを支える	担い手の活動を支える	<p>○ボランティアへのフォローアップ体制 既存の登録者のフォローアップ研修を開催予定していたが感染流行期(第3波)により中止 自主グループの活動支援 傾聴ボランティアの研修を行った。(受講者数 28名)</p>				

	事業内容	取組状況(令和3年3月末時点)	進捗評価(令和3年3月末時点)																	
			2024年度(目標値)	評価 今後の課題等																
「ほおっちょけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	<p>福祉サービス利用支援(生活困窮者支援)</p> <p>○くらし何でも相談会の実施 コロナ禍において会場型開催を中止し、くらし何でも特設電話相談会を開催(計4回) コロナによる減収などの経済的な困りごとのみならず生活の困りごと全般をワンストップで受け止め、内容に応じてセーフティネット関係機関・団体との包括的支援につないでいく。 広報:チラシ3,000部配布, ラジオ・あかるいまち・高知新聞・SNSによる広報周知を行った。</p> <p>○就労準備支援プログラム拡充 ① 協力事業所の開拓(就労に不安を抱える方の受け皿の確保) 企業への事業周知活動 ⇒ 12ヵ所 協力事業所登録数(延べ) ⇒ 13ヵ所(令和元年度実績) ⇒ 20ヵ所 ② 就労準備支援プログラムの実施(日常生活や社会生活の自立と就労に向けた準備) 就労準備支援プログラム・・・316回 就労訓練プログラム・・・140回</p> <p><b>(新規)・オンライン販売用の古本の整理・梱包作業プログラム(令和2年11月～)</b> <b>(新規)・室内プランター栽培(あんしんファーム)プログラム(令和2年12月～)</b></p> <p>○農福連携研究会への参加 ・新型コロナウイルスの影響により令和2年度の参加を見合わせ、主管課と情報共有を図った。 ・農業分野の企業開拓(延べ) 4ヵ所 ⇒ 6ヵ所</p> <p>○無料職業紹介事業 ・令和2年1月に高知市社会福祉協議会として認可を受け事業開始。 ・求人票登録数:3ヵ所 (ポスティング, 食器洗浄・配膳, 工場内作業) ・求人紹介数:2件(うち2件ともに採用)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症への対応 <b>(新規)・生活福祉資金特例貸付の実施</b> <b>新型コロナウイルスの影響で減収した方に対する生活資金貸付の受付業務を人員体制強化し行った。</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>申請件数合計</th> <th>貸付金額合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○緊急小口資金特例貸付</td> <td>5, 117件</td> <td>879, 750, 000円</td> </tr> <tr> <td>○総合支援資金特例貸付</td> <td>3, 710件</td> <td>1, 943, 280, 000円</td> </tr> <tr> <td>○総合支援資金延長貸付</td> <td>2, 393件</td> <td>1, 252, 750, 000円</td> </tr> <tr> <td>○再貸付</td> <td>1, 743件</td> <td>910, 810, 000円</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>(新規)・住居確保給付金の支給</b> <b>新型コロナウイルスの影響で対象拡大した家賃給付の受付業務を人員体制強化し行った。</b> ○対応件数・・・2, 123件 ○申請件数・・・937件(うち、延長申請233件,再申請134件) ○決定件数・・・924件</p>		申請件数合計	貸付金額合計	○緊急小口資金特例貸付	5, 117件	879, 750, 000円	○総合支援資金特例貸付	3, 710件	1, 943, 280, 000円	○総合支援資金延長貸付	2, 393件	1, 252, 750, 000円	○再貸付	1, 743件	910, 810, 000円		B	<p>令和2年度の生活困窮者支援の現場においては新型コロナウイルスの感染症の影響によって住居確保給付金の対象拡充や生活福祉資金特例貸付の対応を余儀なくされ、事業計画や内容を一部変更しながら取り組みを行ってきた。</p> <p>くらし何でも相談会は高知県共同募金会からの助成を受け発展拡張に取り組んできた。コロナ禍において高知市社会福祉法人連絡協議会をはじめとし、同様の主旨の取り組みが市内に広がってきている状況から、次年度以降、こうちセーフティネット連絡会の関係機関とともに連携の在り方について協議していく。</p> <p>コロナ対策となっていた貸付や給付が終了しても尚経済的に困窮している世帯の増加・潜在化が見込まれ、そうしたケースの掘り起こしにつながるアウトリーチの取り組みについては今後の課題である。</p> <p>就労準備支援事業では、緊急事態宣言によって一時休止していたが、下半期に農業・清掃・販売等を展開する市内企業への事業周知に取り組み協力事業所の開拓が進んだ。今後協力事業所へのマッチング事例の積み重ねと対象者の確保に向けて取り組んでいく。</p> <p>プログラムにおいては相談者の特性や希望に柔軟に対応できるようメニューを拡充し、参加中のインセンティブ支給を可能としたことで参加人数増加や意欲向上につながっている。</p> <p>一方で、生活困窮者支援のみでなく就労阻害要因を抱えた相談者のうち、必ずしも就労をゴールとしないケースも一定数あり、出口(地域における居場所や活動への参加など)の在り方や確保については課題になっている。</p>
			申請件数合計	貸付金額合計																
		○緊急小口資金特例貸付	5, 117件	879, 750, 000円																
○総合支援資金特例貸付	3, 710件	1, 943, 280, 000円																		
○総合支援資金延長貸付	2, 393件	1, 252, 750, 000円																		
○再貸付	1, 743件	910, 810, 000円																		
	福祉サービス利用支援(権利擁護の推進)	<p>○中核機関受託に向けて、行政と役割の明確化など協議を行った。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響により、市民後見人養成講座の開催は中止。</p> <p>○令和元年度市民後見人養成講座修了者のうち、3名が市民後見人材バンク登録へ向けての実務実習に参加。</p> <p>○これからあんしんサポート事業については、新規契約者4名で、現在8名の契約者となっている。</p> <p>○日常生活自立支援事業の利用者で、判断能力が著しく低下した方については、成年後見制度への移行を行い、対応可能なケースは市民後見人を候補者とした。</p>		B	<p>中核機関受託については、行政と密な連絡をとり、センターが現在行っている中核機能的な機能を発展的に展開できるよう話し合いを重ねる必要がある。</p> <p>市民後見人受任案件の件数が伸びていないのが現状であり、行政との協議を継続し、市民後見人の活用について、高知市および家庭裁判所と連携を取りながら、円滑に活動できる仕組みづくりを協働して形成する必要がある。</p>															
	在宅福祉サービス	<p>○在宅福祉サービスの職員が個別支援の利用者周辺地域の困りごとに気付き、相談窓口等につなげる仕組み「地域はっと」の取り組みを実施している。</p>		B	<p>現在は「地域はっと」の実績はないが、職員等への活動の周知を行い継続して実施する。</p>															

		事業内容	取組状況(令和3年3月末時点)	進捗評価(令和3年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
「ほおっちょけん」のまちづくり	その人らしい暮らしを支える	地域福祉活動推進	<p>○各種会議への参画 地域ケア会議等におけるインフォーマルサービスに関する情報提供に努めた。 ①関係機関との情報交換(地域高齢者支援センターブロック会他) 21回 ②地域ケア会議 25回 ③認知症サポーター養成講座での協働 14回 ④障害者相談センターとの意見交換 7回 ⑤スクールソーシャルワーカーとの意見交換 7回 ⑥個別支援分野との連携 141件</p> <p>○行政, 専門機関, 社協の協働による地域支援強化についての検討 ①子育て世代包括支援センターとの協働 ・「双子を持つママの会」開催時に地域の協力者を民生委員児童委員を通じてCSWが紹介した。ボランティア協力者には自身の育児体験や育児に対する想いも語ってもらったり, 参加したママの話し相手となるよう調整した。 ・「子育て関係の活動者同士の交流会」の企画を保健師と協働し, 活動者への参加の働きかけと会での発表等について調整を行った。</p> <p>○屋上屋を重ねず, 住民活動にとって「負担」とならない提案の検討</p>		A: 順調である B: 概ね順調である C: あまり順調でない	各関係機関の会議や地域ケア会議等へ参画し, 情報収集, ニーズ把握, 情報交換を行っている。福祉分野にとどまらず, 様々な分野における活動を知ることにより, 地域ケア会議等における個別ニーズの把握, インフォーマル資源につなげられるように努める。
	ひとがつながる場づくり	気軽に集まることができる「集いの場」づくり	<p>○「集いの場」づくり 立上げ支援 ①子育てサロン 0ヶ所(総数 20ヶ所) ②サロン 2ヶ所(総数 88ヶ所) ・閉店後の飲食店を活用した男の料理サロンの立ち上げに向けて, 先進地視察調整, 企画内容の検討 広報・周知等を行った。退職世代の男性の楽しみや生きがいづくりにつながっている。 ③認知症カフェ 2ヶ所(総数24ヶ所) ④子ども食堂 5ヶ所(総数36ヶ所) 「集いの場づくり」の取り組みに関しては, 新型コロナウイルス感染症の流行により, 会議や集いの場が自粛を余儀なくされており, 活動の継続が難しくなっている。また, 新規立ち上げについても例年に比べて相談件数が減少しており, 活動の場が縮小している。 一方で, 鴨田地区の子ども食堂では従来の活動が実施できなくなったことを受け, SSWや子育て包括支援センターの保健師と連携し, 支援が必要な家庭への食糧支援の取り組みを展開。コロナ禍でも工夫した活動を実施している。</p> <p>○住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組みづくり ・ほおっちょけん相談窓口に寄せられる困りごと等を課題解決に向けて検討できる仕組みとして, ほおっちょけんネットワーク会議を地域へ提案し, 実施(一宮地区, 江ノ口西地区) 「話し合いの場づくり」の取り組みに関しては, 新型コロナウイルス感染症の流行により, 会議や集いの場が自粛を余儀なくされており, 取り組みの展開が難しくなっている。</p>	【ひとがつながる場づくり】 ・集いの場 ①子育てサロン 41ヶ所 ②サロン 120ヶ所 ③認知症カフェ 41ヶ所 ④子ども食堂 41ヶ所	C	新型コロナウイルス感染症の流行により, 会議や集いの場の運営においても自粛を余儀なくされるなど活動の継続が難しくなっている。また, 新規立ち上げについても取り組みを自粛する傾向にあり, 活動へのコーディネーターが難しくなっている。 福祉分野において専門機関や各所管課と協働する機会も多いため, 各分野での意見交換や日頃からの協議を継続し, 役割分担, 今後のかかわり等について明確にしていく必要がある。 「話し合いの場づくり」に向けた取り組みとしては, ほおっちょけん相談窓口のモデル地区を中心に窓口に寄せられる課題及び日頃見聞きする困りごとの共有と課題の解決に向けた取り組みについて検討する機会をつくる。
	多様な交流の機会づくり	多様な主体がつながる	<p>○地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援 地区社会福祉協議会連合会による研修会等の開催を支援し, 地区社協の地域福祉活動の活性化及び地区社協と各種団体・活動者との情報共有・交流の機会づくりを行った。 ○世話人会: 3回 ○全体研修会: 1回 ・「二度目の青春してますか? セカンドライフ夢追い塾」 講師: 夢追い塾のみなさん, 佐川町社会福祉協議会 ・「知ろう, 学ぼう, やってみよう! わたしたち やって良かった地域活動!」 ※新型コロナウイルスの影響により開催中止</p> <p>○福祉委員会の開催 朝倉地区・江ノ口東地区において福祉委員会を開催。日頃の活動の共有や今後の活動の展開に向けて意見交換を実施。江ノ口東地区においては, 福祉委員が中心となって共生型のサロンを立ち上げるな</p>		C	地区社会福祉協議会連合会による情報交換会・研修会等の開催支援を継続することで, 活動者同士の情報共有, 交流の機会をつくる。 社会福祉法人の公益的な取り組みとの連携による多様な交流の機会づくりの促進を図るべく, 社会福祉法人連絡協議会の部会活動における取組の検討や活動の展開を支援する。 既存の地域福祉活動において, これまで地域で交流の持たれていなかった住民が参加できるよう社会資源の情報収集, 整理, 提供するとともに学生や若い世代が地域活動へ参加できるよう既存の活動や取り組みへの働きかけを継続する。

		事業内容	取組状況(令和3年3月末時点)	進捗評価(令和3年3月末時点)		
				2024年度(目標値)	評価 今後の課題等	
			ど、活動の幅を広げている。		A:順調である B:概ね順調である C:あまり順調でない	
「ほおっちょけん」のまちづくり	地域で共に支え合うしくみづくり	地域の生活の困りごとの解決に向けたつながりづくり	<p>①『ほおっちょけん相談窓口』運営及び開設に向けた支援 【既存の相談窓口及びモデル地区に対する支援】 実施地区(旭・江ノ口西・一宮・三里・春野) ・毎月1回既存の相談窓口(28ヶ所)への訪問(様式の回収及び状況の確認を実施) 相談件数76件(令和元年11月～令和3年3月末)</p> <p><b>(新規)</b>・高知市社会福祉法人連絡協議会の取り組みとして「出張ほおっちょけん相談窓口」を開催し、窓口の広報、啓発を実施。(相談件数15件,チラシ等,広報物の配布300セット)</p> <p><b>(新規)</b>【相談窓口の新規開設に向けた支援(モデル地区追加)】 ・新たにモデル地区となる地域の各種団体や関係機関等への説明や協議,民生委員,町内会へのアンケート調査を実施した。</p> <p>②住民が主体的に地域の中で課題解決できる仕組み(再掲) 【既存のモデル地区に対する支援】 ・相談窓口に寄せられる困りごと等を課題解決に向けて検討できる仕組みとして,ほおっちょけんネットワーク会議を地域へ提案し,実施(一宮,江ノ口西)</p> <p><b>(新規)</b>・生活支援ボランティア養成講座を江ノ口西地区,江ノ口東地区,一宮地区,三里地区にて実施。養成人数38名(再掲)</p> <p><b>(新規)</b>【新たなモデル地区に対する支援】 ・相談窓口に寄せられる地域の生活の困りごと等を課題解決できる仕組みとして,ほおっちょけんネットワーク会議を地域に提案している。</p> <p><b>(新規)</b>③社会福祉法人連絡協議会の取り組み 連絡協議会内に相談窓口推進部会を立ち上げ,窓口設置に向けた取り組みの拡大と充実に に向けた検討を進めている。</p>		C	<p>モデル地区のみでの実施(R3年度4地区追加)であり,今後は全市展開に向けた検討を市とともに行う必要がある。</p> <p>また,相談窓口へのフォロー,相談対応,地域の中で解決できる仕組みづくり及び場の運営等については,継続して支援を実施していく必要がある。</p> <p>ほおっちょけんネットワーク会議の運営においては,包括支援センターとの協働を視野に検討を進めていく必要がある。また,地域における担い手の負担軽減を考慮し,地域の既存の会議を整理し,同機能を持つ会議の活用について住民とともに検討していく。</p> <p>地域の中で課題解決できる仕組みづくりに向けては,住民や地縁団体に加え企業や有償ボランティア団体等,多様な担い手の発掘を進めるとともにネットワークの構築を進める。</p> <p>社会福祉法人連絡協議会では,相談窓口を設置する法人の増加に向けた取り組みとして,現在取り組んでいる常設型の窓口設置の方法のみに限定するのではなく,アウトリーチ型(地域住民が運営する集いの場等へ連絡協議会の会員法人が訪問)や相談窓口機能(課題を必要な支援機関につなぐ等)を持った職員の育成など,従来の方法に拘らない柔軟な取り組みの展開について検討する必要がある。</p>
			大規模災害に備える仕組みづくり	<p>○市との連携・協働体制 市と「高知市災害ボランティアセンター設置及び運営に関する協定」締結(令和2年3月6日)</p> <p><b>○(新規)災害ボランティアセンター検討会議</b> 災害ボランティアセンター運営のネットワークづくりに向けた会議の開催(3回) 「(仮称)災害ボランティアセンター運営マニュアル」の策定(次年度)</p> <p>○研修や模擬訓練の実施 今年度は新型コロナ感染症対策のため未実施。</p> <p><b>○(新規)災害ボランティアセンター運営職員理解度指標を策定</b> 社協独自の運営模擬訓練は未実施。</p> <p><b>○(新規)奈良市社協,倉敷市社協との「災害時等における相互支援に関する協定」締結</b> 令和2年11月に三市社協で協定を締結。今後,研修や意見交換を行い,具体的な相互支援体制の構築に取り組む。</p>		B
市社協の機能強化	市社協の周知度の向上	様々な活動を通して知ってもらう機会づくり	<p>○ソーシャルメディアを活用した広報(関心を高めるきっかけづくりへ記載)</p> <p>○「ほおっちょけん」キャラクター広報物(「ほおっちょけん」の住民意識づくりへ掲載)</p> <p>○ほおっちょけん出前講座の実施 3件,受講者40名(内訳 権利擁護関係3件)</p> <p>○広報戦略プランを作成(令和元年途中から令和3年度) 「市社協に関心をもちたい」「社会課題を共有する」「住民が参画したいと思える」を基本コンセプトとして8つの戦略事業を進める。</p> <p>○活動報告誌を作成 1年間の社協活動をまとめた活動報告誌(4,700部)を作成し,社協会員や関係機関等へ配布</p> <p>○地域福祉コーディネーターの地域支援活動を通して,市社協の周知を行う 地区への訪問 1,287回</p>	【高知市社会福祉協議会の知度】 ・「名前も活動の中身もよく知っている」「名前は知っており,活動も少しは知っている」人の割合 市民 50% 町内会長・自治会長	B	<p>広報戦略プラン戦略事業に沿って,ホームページ等SNSの充実を図るため,ホームページ委託業者と,今後も定期的に打ち合わせを行う。また,市民に対して更に情報発信をしていくため,ユーザー数が多い新たな広報媒体(公式ライン)を導入し,広報の強化を図る。</p> <p>ほおっちょけんキャラクターを活用して,広報媒体の拡充を図る。</p> <p>活動報告誌を通して,社協会員への報告及び市民に対して社協活動全体への理解を深めるため,継続して発行する。</p>

	事業内容	取組状況(令和3年3月末時点)	進捗評価(令和3年3月末時点)			
			2024年度(目標値)	評価 今後の課題等		
市社協の機能強化	地域福祉コーディネーターの役割・機能の明確化	<p>○キャリアパスの運用による計画的な人材育成</p> <p>①【OJTの実施】 新任職員へのOJT担当者の配置と内容のブラッシュアップを行った。</p> <p>②【OFF-JTの実施】 <b>(新規) ・高知縣市町村社協連絡会, 高知県社協主催のコミュニティソーシャルワーカー養成研修を受講した。</b> <b>(新規) ・オンラインで行われる研修が増加したため, より多くの職員が研修に参加できた。また, ZOOMや動画編集等の研修を企画し職員の技術向上に努めた。</b> <b>(新規) ・小地域福祉活動の評価として参加型評価を住民参加で行い評価の手法の学びを深めた。</b></p> <p>③【SDSの実施】 キャリアパスと自己啓発カードを連動させ, 目指す地域福祉コーディネーター像を明確にするとともに, 個人の課題を自ら考え目標設定をすることができた。 <b>(新規) 社会人基礎力自己チェックシートを試行的に実施した。</b></p> <p>④【CSWの啓発】 <b>(新規) ・コロナ禍における, 地域づくりの情報発信や感染予防啓発等を含めて住民への地域福祉コーディネーターの周知活動を行った。</b></p>		B	<p>コロナ禍における先進地の地域活動の好事例を研究し, 高知市における活動展開に向けて住民や関係機関と検証しながら実践につなげていけるように取り組む。 地域福祉コーディネーターの役割・機能の明確化については, 地域の専門職との情報共有等密な連携のもと地域に応じた活動を展開する。 人材育成においては, 例年通りの取り組みを継続するとともに試行的に実施した社会人基礎力自己チェックシートの運用を定着させる。</p>	
	複合的な地域福祉課題への解決力の向上	様々な相談に対応できる職員の育成	<p>○制度の挟間や潜在化している生活困窮者への支援, 個人の権利を擁護するための専門的な知識や技能の取得に向けて, zoomを利用した国, 県, 県社会福祉協議会主催等の研修会や連携会議に積極的に参加し, さらに職場内での共有も図っている。</p> <p>○地域支援事例検討会(10回)や地域力強化実践検討会を行うことで, 職員同士が学びあい高めあえる機会になるとともに, スーパーバイズを受ける機会にもなり, スキルアップにつながった。</p>		B	<p>職員一人一人が行政や関係機関との連携やネットワークの構築に努め, 相談者主体の伴走型支援に取り組む。 他機関主催の事例検討会, 各種講座・研修に積極的に参加し, 課内で実施する地域支援事例検討会等を継続し, 地域福祉を推進していくためのスキルアップを図る。 市とは, 地域支援事例検討会や事務局会を通じての検討や協議を継続して行う。 地域支援事例検討会等, スーパーバイズを受ける機会には, 貴重な場となっており, より多くの職員が担当業務のスーパーバイズを受けられるよう取り組む。</p>
	地域福祉課題に取り組む組織的チャレンジ		<p>○地域福祉課題への取り組み</p> <p>①高知市, 高知市民生委員児童委員協議会連合会, 高知市地区社会福祉協議会連合会, 市社協の4者合同主催の高知市社会福祉大会において, 社会情勢に沿ったテーマを掲げて啓発等を行う。 テーマ「これまでとこれからの地域福祉」 新型コロナウイルス感染拡大の中, つながりを途切れさせない地域福祉活動の工夫や新たな取組事例を動画にて紹介し, 今後の地域福祉活動に役立てるため, 地域団体等に配布。</p> <p>○ファンドレイジングの取り組み</p> <p>① 職員育成 競合他社の現状や全国の潮流等を学ぶため, ファンドレイジング日本に参加</p> <p>②組織内ファンドレイジング環境整備 <b>(新規) 寄付アプローチ用遺贈チラシ(2,000枚)作成</b></p> <p>③寄付アプローチ 寄付付き商品として, ほおっちょけんどら焼きを随時販売(菓舗浜幸協力)2,599個 (再掲) 終活セミナー ※新型コロナウイルスの影響により開催中止</p> <p>④自主財源の確保</p> <p>○共同募金の取り組み <b>(新規) ①コロナ禍での募金活動となり, 非接触での活動を模索。新規でチラシの作成や振込に切り替える等の工夫を地区へ提示し, 取り組みを支援する。また中央共同募金会から提示されたコロナ禍での募金活動のガイドラインについて希望した地区委員会で説明を行う。</b> <b>(新規) ②高知市共同募金委員会助成金として18団体へ助成を行う。(R元年度に新規公募助成事業を開始したため立ち上げ, 本年度が初回助成)</b> <b>(新規) ③ 助成審査の見直し, 公募助成先のインタビュー実施</b> <b>(新規) ④ 「赤い羽根」×「ほおっちょけん」バッジ500個作成, 359個配布</b></p>		B	<p>社会福祉大会のように関係機関との継続した取り組みを進める中で, 新規事業の創設等, 課題解決に向けて組織内での検討を進める。 ファンドレイジングの取り組みでは, 課題解決に向けて組織的に取り組むため, 外部研修への参加や職員研修を継続して開催し知識を習得する。また, 課題解決に向けて取り組む基盤づくりのため, 遺贈の受入やマンスリーサポーター制を推進し, 自主財源の確保に努める。 共同募金としては, 助成審査の仕組みを評価し, 地域をよくする仕組みとしての機能を満たす取り組みとなっていくための検討を重ねる。</p>